



当社のクラウド型温度管理システムのご紹介です。

医薬品業界では GMP/GDP、食品業界では HACCP など、各業界において品質管理に関するガイドラインの整備が進んできており、品質に結びつく管理項目（温度・湿度・清浄度・照度・振動等）をデジタルデータとして蓄積、分析することができる IoT システムのニーズが拡大しています。



しかしながら、既存のシステムは導入するにあたって設置工事にコストと時間がかかる、無線ロガーは設置場所によっては通信が不安定などの課題があります。そのような問題を解決したクラウド型温度管理システムをリリースしましたのでご紹介します。

クラウド型温度管理システム LogView



[PoE方式を採用した温度ロガー（型式：GT101-T）](#) + [クラウドシステム（型番：LogView）](#) で構成されたクラウド型温度管理システムは、小規模から大規模まで導入エリアの規模を問わず柔軟に設置できるシステムになっています。
本システムの特長は、以下3点です。



温度ロガー本体にバックアップ電池とバックアップメモリが搭載されており、停電等で電力供給や通信回線が使用できない場合でもデータ収集可能。



PoE方式の採用により、データ通信の安定性と連続的な電力供給を確保しながら設置や移動へ柔軟に対応可能。



LogViewの各種機能を用いることで、容易にデータ収集とデータマネジメントが可能。

製品の詳細が分かる[アプリケーションノート](#)を無料で公開しております。
是非ダウンロードください！

▼導入事例や温度ロガーの仕様をご紹介します▼

[アプリケーションノートをダウンロードする（無料）](#)

[クラウドシステムの製品ページを見る](#)

温度マッピングサービス

温度マッピングとは温度ロガーを倉庫や輸送コンテナ等の空間内に多点に設置し、一定期間の測定データを分析することです。

医薬品の保管においては、品質管理基準である GMP/GDP への準拠や倉庫バリデーション (OQ/PQ) のため、空間内の温度分布を計測する温度マッピングが必要となります。

[温度マッピングサービスについて詳しく見る](#)